

第5節—— 魅力ある都市空間の形成と産業の振興

快適でゆとりある都市を実現するために、秩序ある土地利用を誘導し、都市活動と経済活動が調和する都市機能の強化や拠点の育成、整備に努め、魅力ある都市空間を形成します。

また、広域的な交流を促進し、次代を担う先導的な産業の育成や、新たな都市型産業の展開により就業の場としての魅力を高め、活力とにぎわいのある産業の振興を図ります。

松戸市の良さ・暮らしやすさ (あなたの想いを聴くインタビュー〈市民編〉より)

魅力ある都市空間の形成と産業の振興

都心に近い
(アクセス
の良さ) **124**人

東京に近く便利だというイメージがある。わずかな時間で都内に出られるので、ほとんど都内に住んでいるのと変わらない。

交通の便の
良さ、道路・
交通網の充実 **121**人

電車は、JR線は2本、私鉄も北総線、新京成線、流鉄流山線、東武野田線と4本の計6本もあり、バスも縦横に走っている。国道6号線を使えば車も便利な場所であると思う。バスも整備されている。

日常生活、
通勤・通学に
おける利便性 **65**人

都内に近く電車の便もいいため、大学や企業の多い東京に通勤、通学するにはとても便利。また、身近なお店で生活に必要なものが一通りそろそろ、日常生活に不自由のない生活ができる場所。

松戸市の将来イメージ (あなたの想いを聴くインタビュー〈市民編〉より)

魅力ある都市空間の形成と産業の振興

道路や歩道が整備され、公共交通等の利便性がより向上した街 **54**人

道路の無電柱化が進み、歩道がきちんと整備されることで、歩行者も車も安心して通れるようになる。また鉄道・バス路線がより充実することで、さらに利便性の高い松戸になっている。

若者が集まるような、賑やかで活気ある街 **42**人

若者が駅前にたくさん集まって、賑やかさや華やかさに満足するとともに、若い世代も住みやすい街並みに変貌し、若年者世代が好んで流入してくる。

個性的な店舗があり、商業施設の充実した街 **41**人

レストランやブティックなど商業地域としてきれいに整って、皆が楽しめる洗練されたまちになっている。個性的なお店が駅周辺に集まって、いろいろな人がショッピングを楽しめる。

1 地域産業を振興し、豊かな経済活動ができるようにします

現況と課題

●商工業の振興

本市は、23ある駅周辺に商店会が点在し、住民生活は大変便利な環境にあります。しかし、少子高齢化等による社会環境の変化により消費は減少し、本市小売業における年間販売額では平成16年は3,857億円、平成19年では3,841億円と、16億円の減少となっています。

また、本市周辺を取り囲むように大規模商業施設の出店が相次ぎ、周辺都市との地域間競争は激しくなっており、商店会は、厳しい状況にあります。松戸駅周辺の中心市街地では、商業地域から住居併用型の商業地域に変化し地域全体での新たな転換を迫られています。

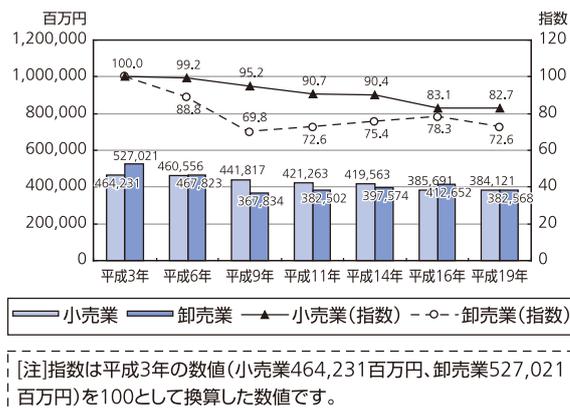
また、本市の工業は3つの工業団地を中心に工業生産を維持しており、製造品出荷額は平成16年度においては4,269億円、平成19年度においては4,811億円で542億円の増加となるも、平成20年10月以降、世界的な経済危機の影響を受け製造品出荷額の減少が見込まれています。しかしながら、工業団地は、東京都心から20km圏、大消費地の東京都に隣接し、道路アクセスも良く、恵まれた立地環境であり工業団地としての条件が整っており、工場が撤退しても、物流拠点として活用され、空気が殆どありません。

●農業の振興

本市の農業は、ねぎ、かぶ、大根、枝豆などが多く栽培され、県内はもとより全国でも有数の産地となっています。さらに、「二十世紀梨」の原産地として梨の栽培が盛んで、現在は幸水、豊水などが有名で、秋の収穫時季にはもぎとり・直売でにぎわっています。地域でとれる食材の魅力や食の成り立ちを学ぶためにも、松戸産の地場農産物の周知と消費拡大が求められています。

しかし、農業従事者の高齢化、収入の不安定などにより後継者が不足し農地減少、遊休農地の増

図表 25-1 卸売業・小売業の年間販売額



出典：松戸市商業・商圏調査報告書

図表 25-2 市内の工業における製造品出荷額 (平成19年12月31日現在)

(金額単位：万円)

産業中分類	事業所数	製造品出荷額等
	総数	総額
松戸市	443	48,105,726
09 食品	31	5,601,180
10 飲料・たばこ	5	11,064,842
11 繊維	2	X
12 衣服	16	146,834
13 木材・木製品	1	X
14 家具・装備品	14	221,979
15 パルプ・紙	24	3,409,856
16 印刷	31	1,317,859
17 化学	10	4,028,125
18 石油・石炭	—	—
19 プラスチック	39	3,416,217
20 ゴム	10	262,079
21 なめし革	16	239,347
22 窯業・土石	12	610,597
23 鉄鋼	5	461,298
24 非鉄	2	X
25 金属製品	90	6,569,759
26 一般機械	59	1,979,905
27 電気機械	12	228,915
28 情報通信機械	2	X
29 電子・デバイス	12	4,446,658
30 輸送用機械	9	131,633
31 精密機械	15	317,119
32 その他	26	928,403

出典：工業統計調査(経済産業省)

加が報告されています。また、環境にやさしい農業を推進していますが、市街化区域内の農地では住宅が隣接しているため、営農環境が年々悪化しています。

●観光の振興

本市では、春を告げるさくらまつりが市内4カ所で開催され、その後年間を通して花火大会、松戸まつりの他、各地域での様々なイベントが行われます。

松戸地区には、国指定重要文化財に指定された「戸定邸」があり、矢切地区には、江戸時代から続いている渡し舟「矢切の渡し」が、今でも残っています。また、近くには伊藤左千夫の純愛小説「野菊の墓」文学碑がある西蓮寺と眺望のよい野菊苑があります。

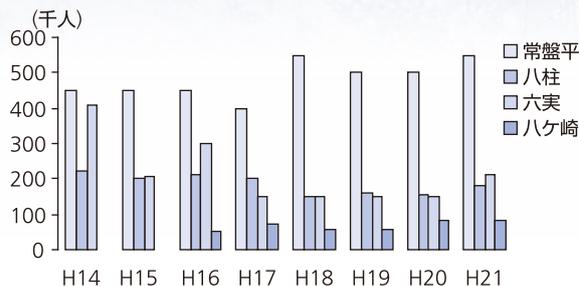
小金地区には、「本土寺」「東漸寺」など歴史・文化資源が多く存在しており、今後も、今の形を残し、広く伝えていきます。

しかしながら、主要観光スポットの観光入込数は、平成13年に318万人だったものが、20年には262万人へと減少しています。

松戸市の良さ・強み

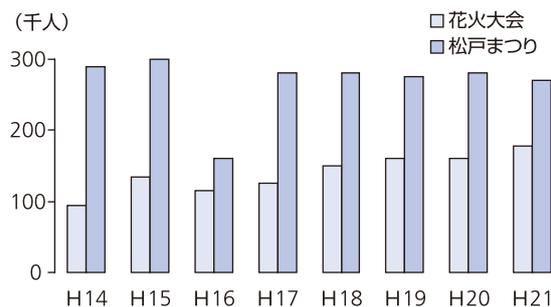
- どこに住んでも、身近な商店街で日用品などの買い物ができ、利便性が高い生活環境です。
- 「矢切ねぎ」「あじさいねぎ」など全国に誇る農産物があり、また、減農薬による安全・安心な農産物の栽培を行っています。
- 自然・文化・歴史を感じるスポットが多く残されています。

図表 25-3 さくらまつりの集客数の推移



出典：商工観光課資料

図表 25-4 花火大会と松戸まつりの集客数の推移



出典：商工観光課資料

めざしたい将来像

今ある資源を活かした、新しい松戸らしい地域産業を生み出すため、産・学・官・民の連携、世代間を超えた連携を継続して行うことによって、若者にも魅力ある松戸のまちを実現します。

めざそう値

	実績値		現状値	めざそう値
	13年度	19年度	21年度	32年度
快適・便利・賑わいがあると感じている人の割合	42.9%	37.7%	35.4%	50%
商業の年間商品販売額	80,376,473万円	76,488,304万円 (H19.6)	76,668,908万円 (H19)	80,000,000万円
製造品出荷額	46,795,923万円 (H12.12)	42,773,374万円 (H18.12)	47,370,740万円 (H20)	43,000,000万円
農用地利用権設定面積	—	1.54ha	3.55ha	1.8ha
松戸の良さを伝えるために取り組んでいる市民の割合	—	—	19.0%	30%
主要観光スポットの観光客数	3,175千人	2,627千人 (H19.12)	2,617千人	2,800千人

市民と行政それぞれの役割

●市民の役割

- 市民は、松戸の産業や農業に関心を持ち、市内での買い物や地産地消を心がけるようにします。
- 事業者は、周辺の事業者と連携をし、地域の活性化にも心を配るようにします。
- 市民は、市内の観光資源の保全や活用に協力するようにします。
- 農家は、農業が継続できるように努力します。

●行政の役割

- 起業したい人が起業しやすくするため、ノウハウや資金面など必要な支援を行います。
- 経営者が地域で経営を続けられるように、企業や大学、国、県等と連携をして、あらゆるバックアップができる体制をつくります。
- 矢切の渡しなどの観光資源を活かすなど松戸ブランドによるまちおこしができるように支援します。
- 農家が農業を続けられるように、地産地消を含めて、支援します。

施策の展開方向

① 商工業を盛んにします

商店会への支援策として、意欲的な商店会が行う販売促進活動(イベント開催等)、街路灯やアーチなど商店街の賑わいを創出する共同施設整備、商店街の空き店舗対策などに対する支援を行います。また、環境変化やニーズの変化に的確に対応するため、商店会の活性化に向けた指導育成や法人化の支援に努めます。

松戸駅周辺においては、松戸駅の改造などもあることから、地元住民との協働によりまちづくりの方向性を明確にし、計画を策定するとともに、本市の中心市街地にふさわしい商業環境の整備に努め、駅周辺でのイベントや販売促進活動を推進し、商業基盤の強化を図ります。

工業においては、経済情勢や企業をとりまく環境の変化に対応し、企業活動の活性化や、バランスある産業構造の確保に努めます。また、付加価値の高い製品の製造業の誘致などを図り、工業団地の政策的使命を果たすとともに、今後の土地利用の状況を見極め、有効活用を推進します。

卸売市場は、規制緩和等による流通構造の大きな変化に伴い全国的に取扱量が減少していることから、活性化が図れるよう公設市場の民営化の検討を進めます。

② 農林水産業を続けられるようにします

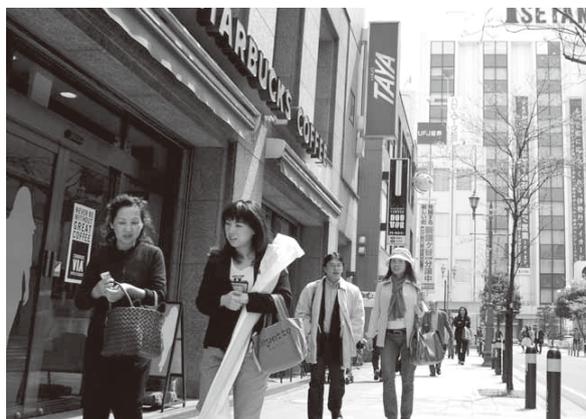
平成23年度の「農業経営基盤の強化の促進に関する基本的な構想」の改正において、農業の法人化を促進し、生産、加工、販売の一体化の推進、新たな松戸ブランド農産物の商品化、意欲ある多様な農業者への農地集積、農産物直売所の設置などを検討していきます。また、観光農業・体験農園・産地直売農園の推進、認定農業者制度の普及・促進をさらに進めます。

③ 市内観光を楽しめるようにします

各地域で、さまざまに開催されるイベントを支援し、地域の活性化を図るとともに、地域のまちづくりのためのボランティア活動を促進していきます。また、ガイドマップ、地区別マップ、観光



商店街でのイベント



松戸駅西口



まつど大農業まつり

協会ホームページを活用し、多様化する観光ニーズに合わせた情報提供の充実を図ります。

観光を目的とする市民ボランティアへの支援体制を向上させ、市民ボランティアの協力を得て、観光地の環境美化や案内の充実などに努めます。

また、「矢切の渡し」のある矢切地区や「本土寺」「東漸寺」がある小金地区などを観光地として、周辺の観光資源の発掘を行い、日帰りで楽しめるような観光ルートの実環境整備を進めます。

関連個別計画

- 農業経営基盤の強化の促進に関する基本的な構想



観光梨園



矢切の渡し



本土寺



東漸寺

2 個性を活かし、能力を発揮して働くことができるようにします

現況と課題

我が国は、雇用情勢の悪化から働く人の生活水準が低下し、雇用に関するセーフティネット機能に高い関心が集まっています。また、雇用形態は全国的に非正規社員が正規社員と同じ仕事をする基幹労働力化が進み、若年非正規社員が増加し、社会問題となっています。

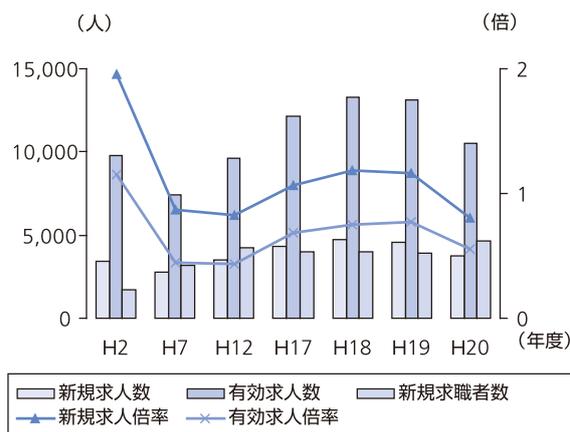
本市の失業率は、全国より低いものの20歳代では高い水準となっており、さらなる若年者の雇用対策が求められています。新規求人倍率は、平成13年度0.66倍が平成19年度0.86倍と若干、上昇していましたが、平成20年秋からの世界的な経済不況により雇用状況は悪化し、平成21年10月の新規求人倍率は0.65倍(松戸管内)と下降しています。

障害者法定雇用率を達成している企業の割合は、平成13年度51.4%が平成21年度42.5%と低下しています。障害者、高齢者、ひとり親家庭の親等、社会的支援を必要とする人々への就労支援と併せて、地域のニーズにあったきめ細かい雇用対策が求められています。

松戸市の良さ・強み

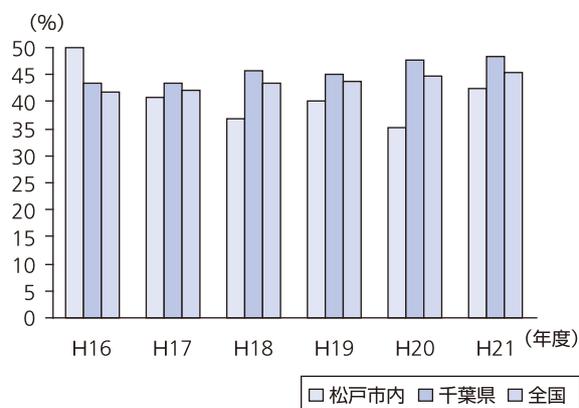
○都心に近く、交通網が発達しているため、求職者は、広いエリアの求人を対象にできます。

図表25-5 松戸公共職業安定所管内の求職者数、求人数の推移(月平均)



出典：松戸公共職業安定所資料

図表25-6 障害者雇用率達成企業割合の比較



出典：民間企業における実雇用率調査(6・1調査)をもとに作成

めざしたい将来像

松戸市に住む人が潤いのある生活を送れるように、若者から高齢者まで就労したい人は誰もが、就労できる環境をつくることによって、松戸に住んでよかったと思えるまちを実現します。

めざそう値

	実績値		現状値	めざそう値
	13年度	19年度	21年度	32年度
新規求人倍率（松戸市内）	0.66倍	0.86倍	0.51倍	1.0倍
65歳以上の完全失業率	4.8% (H12)	—	5.8% (H17)	4.8%
20歳代の就業率	69.2% (H12)	—	66.8% (H17)	70%
就業者数	235,837人 (H12)	—	232,391人 (H17)	260,000人
障害者法定雇用率を達成している企業の割合（松戸市内）	51.4%	37.0% (H18.6)	42.5% (H21.6)	50%
障害者法定雇用率を達成している企業数	—	—	34社	40社

市民と行政それぞれの役割

●市民の役割

- 就労しようとする人は、就労に必要なスキルを自ら身につける努力をします。
- 事業者は、市内で働く場をつくるようにします。
- 事業者は、若者を積極的に雇用します。

●行政の役割

- 若者の起業や就労支援を市民のアイデアを生かしながら実施します。
- 様々な分野への就職の機会を拡大するため、職業訓練などの支援を行います。



施策の展開方向

失業率の高い若年層や結婚や出産を機に仕事を辞めたために再就職が難しくなっている女性、あるいは高齢者の就労を促進する職業訓練や講座、相談窓口などの取り組みを充実します。また、就労意欲の高い障害者の就労環境の整備や就労機会の拡大を図るため、関係機関との連携を図りながら雇用の促進を図ります。

中小企業勤労者の福利厚生制度の整備を図るため、退職金制度導入の推進や労働に関する問題に対応する相談窓口を設置し、勤労者の福祉の向上に努めます。



勤労会館



しごとサポートコーナー（女性センター）

3

ゆとりを感じるまちに住むことができるようにします

現況と課題

●住環境

本市は、良好な居住環境の形成をめざし、高度成長期の急激な都市化に対処しながら、東京に隣接する住宅都市として飛躍的な発展をとげてきました。なかでも土地区画整理事業は歴史も古く、施行面積は市街化区域の4割を占めるに至っています。

一方、本市は、計画的整備の及ばない住宅密集地域や、現在の耐震基準が施行された昭和56年以前に建築された住宅が存在するため、安全性や利便性を考慮した良質な市街地環境の整備が望まれます。

●住宅供給

本市の住宅事情は、大規模なUR都市機構を含めた公共住宅の供給量が近隣市に比べて多いことや都心に近いことからマンションの供給が多いことが特徴になっています。このため、国勢調査(平成17年)によると、本市の持ち家に居住する世帯割合は58.1%となっており、近隣市、千葉県平均と比べ低くなっています。

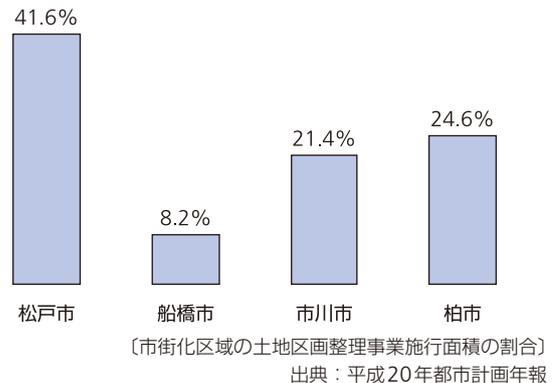
なお、市営住宅は、平成22年4月現在、23住宅1,564戸あり、約半数が、昭和56年以前に建築されたため、耐震補強等の改善の必要があります。また入居者の高齢化が急速に進んでいるため、高齢者の生活に配慮した住宅への改善が求められています。

●美しいまちなみ

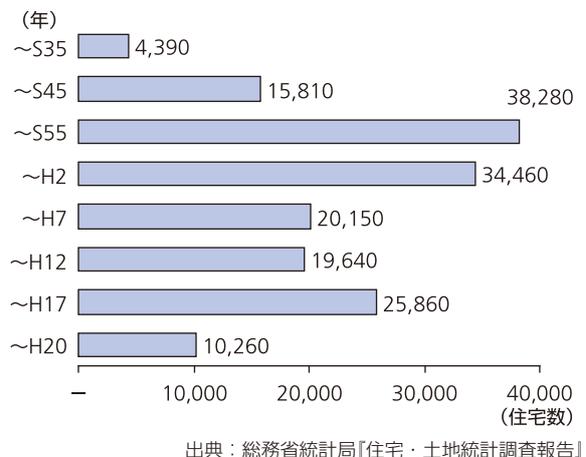
本市の市街化区域は、市域の約7割を占め、台地部では早くから大規模な団地建設や宅地開発がなされ、比較的ゆとりのあるみどり豊かな街並みが形成されています。一方、低地部ではやや密度の高い住宅地環境が形成されています。

市民ニーズ調査の結果からは、今後のまちのイメージとして、新たな開発よりも自然や緑、歴

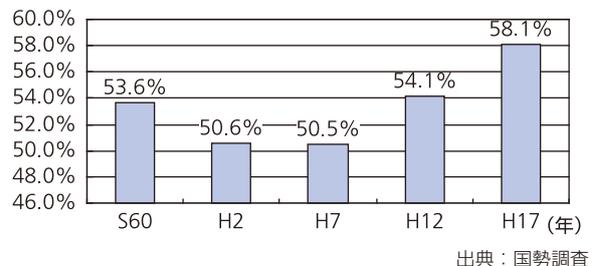
図表25-7 土地区画整理事業施行面積の近隣市比較
(施行中を含む)
平成20年3月31日現在



図表25-8 住宅建築の時期
(平成20年10月1日現在)



図表25-9 持ち家率の推移



史、文化など、松戸の良さを活かした緑花清流都市を選ぶ市民が多くなっており、ライフスタイルの変化や生活環境の質に対する価値観の多様化を背景として、市民の住宅に対する関心は、住宅の広さとともに周辺公共スペース、自然環境といった総合的な住環境へと広がっています。

松戸市の良さ・強み

- 23の駅があるなど利便性の高さに加え、自然環境も豊かな良好な住環境が整備されています。
- 住宅の供給量が多く、価格もお手ごろ感が強くなっています。
- 江戸川や矢切の斜面林など自然に恵まれ、景観づくりの資源が豊富にあります。

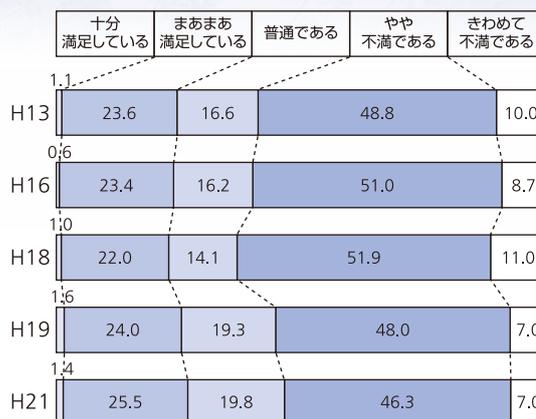
めざしたい将来像

文化的で自然豊かなゆとりのあるまちと感じられるように、産・学・官・民が連携してまちづくりをすすめることで、地域のコミュニティが生まれ、市民のふるさととしてふさわしいまちを実現します。

めざそう値

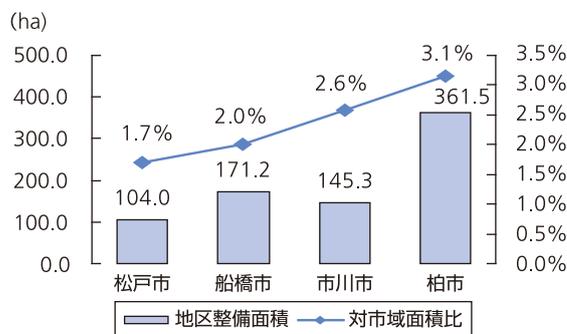
	実績値		現状値	めざそう値
	13年度	19年度	21年度	32年度
安心やゆとりを感じている人の割合	24.6%	25.6%	26.9%	30%
最低居住面積水準未達率	7.0% (10年度)	—	8.3% (20年度)	0%
景観づくりに参加する人の数	—	48人	73人	120人
地区計画策定面積	104.0ha	104.0ha	104.9ha	127ha

図表25-10 安心やゆとりの6項目の満足度



出典：市民意識調査

図表25-11 地区計画面積の近隣市比較



出典：平成20年都市計画年報をもとに作成

市民と行政それぞれの役割

●市民の役割

- 近隣の人たちと協力して、自分たちの地域の良さや足りないところと一緒に考え、良好な住環境が維持できるように協力し合うようにします。
- 市民は、可能な範囲で、環境に配慮した住環境とするように心がけます。
- 良好な住環境を創りあげる上で必要な場合には、可能な範囲で、自己の遊休地を提供などするようにします。

●行政の役割

- 防災面や自然環境、利便性に配慮した良好な住環境を整備します。
- 地域の特性に応じた良好な住環境のため、地区計画^{*28}や建築協定^{*29}などができるようにサポートします。
- まつどらしさを共有し誇りの持てる地域社会を実現するため、市民、事業者と協働で景観づくりをすすめます。
- 公共的住宅などのあり方を産・学・官・民で連携して検討し、市民に広く情報提供します。

施策の展開方向

① 住環境が整ったまちにします

本市では、市街地環境の整備、改善を図るため、土地区画整理事業などを促進しており、1人当たりの居住面積についても、近隣市と比べ同等の水準にあり、近年上昇傾向にあるため、良好な居住環境が拡大しつつあると考えられます。

今後も快適で利便性の高い市街地環境の整備を進めるため、都市基盤の整備や再整備を要する区域にあっては、地区計画制度など様々な手法の活用を図り、市街地環境の向上をめざします。

また、松戸市耐震改修促進計画に基づき、耐震化を促進することにより、安全な住宅に誘導し、住生活基本計画に定める基本理念「松戸の歴史・文化と人材を活かし、誰もが安心して豊かに住み続けられる住生活の実現」に向けて、基本目標に沿って各種事業を推進します。



地区計画制度を活用した住環境

② 生活の援助が必要な人に住宅を供給します

経済的な理由で住まいの確保に困窮する世帯や、母子家庭、障害者、高齢者などの民間賃貸住宅への入居が難しい世帯についても、住まいが確保でき、安心して生活を営めるように、公営住宅を今後も確保していきます。

現在の戸数を基本に、耐震化・バリアフリー化等を行い、既存ストックの質の転換を図りつつ、同等程度の住宅を確保していきます。

さらに、特別に支援が必要な人々へのソフト的な施策として、居住支援づくりを検討していきます。



市営住宅

③ 美しいまちなみを増やします

生活都市として快適でうるおいのある美しい都市の景観づくりをめざし、自然や歴史・文化を大切にするとともに、道路、河川などの公共空間やまちなみを構成する建築物などの景観に配慮し、市民や事業者と協働で景観づくりを推進します。

そこで、景観にかかわる意識の高揚を図るとともに、景観基本計画で定める松戸らしい景観づくりの基本的な考え方や方向性に基づき、地域住民の意向に沿ったまちづくりの実現に向け、市民、事業者、行政のそれぞれの役割を明確にしながら各種事業を推進します。

関連個別計画

- 松戸都市計画区域の整備、開発及び保全の方針
- 松戸市都市計画マスタープラン
- 松戸市都市再開発方針
- 松戸市景観基本計画
- 松戸市景観計画
- 松戸市住生活基本計画
- 松戸市市営住宅ストック総合活用計画
- 松戸市耐震改修促進計画



4

誰もが安心してスムーズに移動できるようにします

現況と課題

●歩行者等の移動

急速な高齢化が進むなか、高齢者や障害のある方々をはじめとして、誰もが安心してスムーズに移動できる歩行空間の整備が求められています。そのため、本市は、交通事業者など特定事業者と重点整備地区2ヶ所(松戸、新松戸・幸谷地区)を中心にバリアフリー化を進めています。

●車の移動

交通手段として車を気軽に利用する市民は増えており、国道6号や県道に接続する箇所及び狭小幅員の道路、路上駐車等が原因で渋滞が多く発生しています。交通渋滞は、移動時間を延長させ、快適性や安全性をそこなうとともに、緊急車両の通行などに支障を来すことから、幹線道路をスムーズに移動できるようにし、住宅地に車が入りこまないよう、都市計画道路をはじめとする道路整備を行っています。

●公共交通等の利用

松戸市内には、JR常磐線、JR武蔵野線、新京成線、東武野田線、北総線、流鉄流山線の6本の鉄道と、23の駅があり、都心へのアクセス及び市域内の交通ネットワークも充実した利便性の高いまちです。

なお、この公共交通の結節点には、通勤・通学者、買い物客などの自転車利用者のために自転車駐輪場を整備しています。

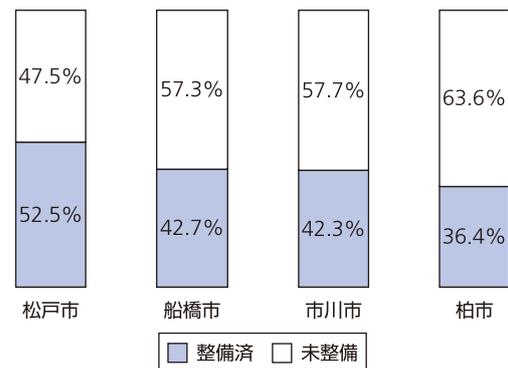
一方、急速な少子・高齢化による鉄道利用者の減少や、つくばエクスプレスの開業等(平成17年8月)により、JR常磐線の混雑は解消されつつありますが、鉄道利用者の減少は、列車の運行本数の削減につながるなど、新たな問題も生じております。

図表25-12 道路の整備状況
(平成21年度末現在)

区分	実延長	舗装延長	舗装率
国道	17,819m	17,819m	100.00%
県道	67,965m	67,965m	100.00%
市道	1,089,938m	1,057,160m	97.00%
計	1,175,722m	1,142,944m	97.21%

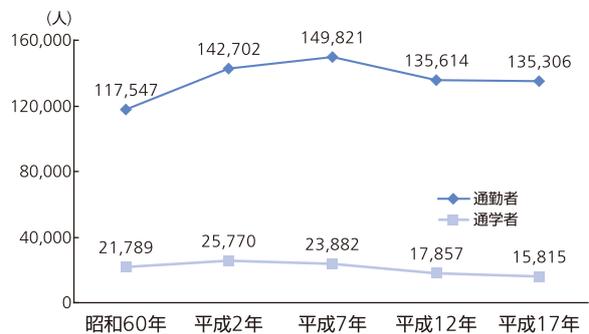
出典：松戸市政の概要

図表25-13 都市計画道路整備状況の近隣市比較



出典：平成20年都市計画年報をもとに作成

図表25-14 松戸市から他市への通勤・通学者の移動の状況



出典：国勢調査をもとに作成

松戸市の良さ・強み

- 都心に近く、市内には、6本の鉄道と路線バス5事業者による公共交通ネットワークが充実し、交通利便性は高い状況にあります。
- 市内一円に道路網が整備されており、どこからでも幹線道路にアクセスしやすくなっています。

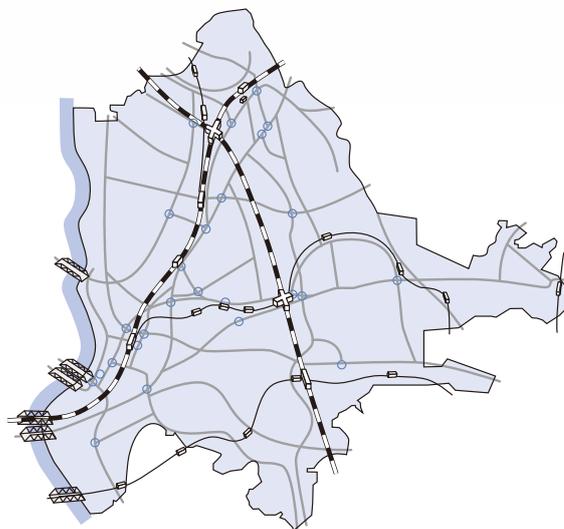
右図は、市内の主な渋滞箇所を表示しています（○印、26ヶ所）。

国道、県道などの接続箇所に右折レーンがない、狭小幅員など道路の構造上の問題と、路上駐車などによる渋滞が原因で発生しています。

※渋滞箇所

通勤時間帯における車の信号待ち回数が概ね3回以上となる箇所

図表25-15 渋滞箇所の状況



めざしたい将来像

誰もが安心して気軽に外出できる街並みを増やすために、人と自然にやさしい公共交通と道を整備することによって、いつまでも住み続けていたいまちを実現します。

めざそう値

	実績値		現状値	めざそう値
	13年度	19年度	21年度	32年度
道路のバリアフリー地区別完了率	—	6.7% (1/15 地区)	6.7% (1/15 地区)	27% (4/15 地区)
鉄道駅のバリアフリー化率（ワンルート整備率）	5.3% (1/19 駅)	47.4% (9/19 駅)	60.0% (12/20 駅)	100%
鉄道の混雑率（緩行電車）	209% (12 年度)	179% (18 年度)	173% (20 年度)	150%
鉄道の混雑率（快速電車）	205% (12 年度)	177% (18 年度)	175% (20 年度)	150%
渋滞箇所数	28 箇所	26 箇所	26 箇所	25 箇所

市民と行政それぞれの役割

●市民の役割

- 市民は、行政に要求するだけでなく、必要な施策であれば、できるだけ協力するようにします。
- 市民は、歩きにくい道や危険な道について調べ、『マップ』を作り注意を促すなど、その解消に可能な範囲で協力します。
- 誰もが、歩きやすいように、思いやりをもって、道路に自転車等を放置したり、物を置かないようにします。

●行政の役割

- 行政は、まちづくりの全体計画や課題を、地域住民にわかりやすく丁寧に説明するようにします。
- 生活道路が安全になるように、幹線道路も含めて、全体的な計画をもって進めます。
- バリアフリー化など歩行者の安全を優先した道づくりを、優先順位を明確にして行います。
- 市内の道路について、管理基準に基づき評価し、補修などの優先順位を明確にします。

施策の展開方向

① 歩行者等が移動しやすくなります

「松戸市交通バリアフリー基本構想」に基づき、特定事業者(公共交通事業者、道路管理者、公安委員会)が、重点整備地区内の駅や特定経路等についての整備または整備着手をめざした「特定事業計画」を策定することを支援してきました。同計画により、松戸地区においては、引き続きバリアフリー化整備を進めていきます。

今後は次期重点整備地区を検討しながら、引き続き段階的に整備を計画していきます。



② 車で移動しやすくなります

市民生活に欠かすことのできない社会基盤として、道路の機能を確保するため、定期的に、道路のパトロールを行い、計画的に舗装整備や段差解消を図っていきます。

また、交差点の改良などにより、渋滞の解消を図るとともに、都市計画道路の段階的な供用開始に向けて、整備に努めていきます。



都市計画道路3・3・7号 横須賀紙敷線

③ 公共交通が利用しやすくなります

鉄道については、鉄道駅のバリアフリー化などの支援、運行計画や運行本数の確保等に向けて、国土交通省や鉄道事業者等関係機関に働きかけて利便性の向上をめざしていきます。また、JR常

5 安全な河川に整備し、きれいな水とふれあえるようにします

現況と課題

●治水

本市における河川は、江戸川に沿った低地を中心とする坂川流域、市川市を下流域とする真間川流域、手賀沼を下流域とする手賀沼流域の3つの流域に分かれています。過去の大雨では、坂川と新坂川に挟まれた栄町・西馬橋地区や長津川沿いの中和倉・新作地区、前田川沿いの八ヶ崎地区、国分川沿いの大橋地区、春木川沿いの日暮地区などで浸水被害が発生していましたが、河川や排水路の断面積を広げる改修事業により、年々浸水区域も減少しています。

これまでは、基本的に1時間50mm程度の降雨を想定して対応しておりますが、近年、突発的な集中豪雨などの浸水被害が発生しており、対応が望まれています。

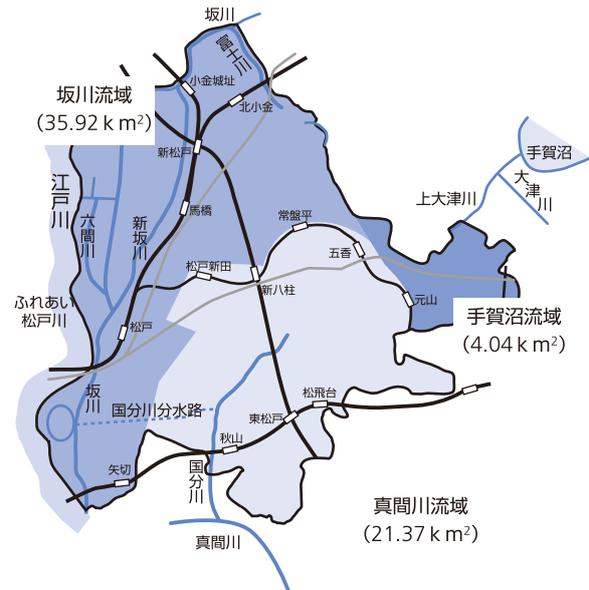
●水環境

江戸川及び坂川流域では急激な都市化が進み、以前は汚濁や臭気の発生など河川の水環境が大きく悪化していました。このため行政(国・県・市)と地域住民が一体となった「水環境改善緊急行動計画(清流ルネッサンス21)」「第二期水環境改善緊急行動計画(清流ルネッサンスⅡ)」により、国による「ふれあい松戸川」の整備や下水道事業等との連携などにより水環境の改善を進めています。なお、下水道利用率は、平成13年度に62.17%であったものが、21年度には、74.10%となっています。

千葉県に協力して進めている「坂川再生事業」では、小山から赤塚までの区間で、川沿いの歩道や川岸の整備、水辺に近づける工夫、植樹やレンガ橋の保存などを進めています。

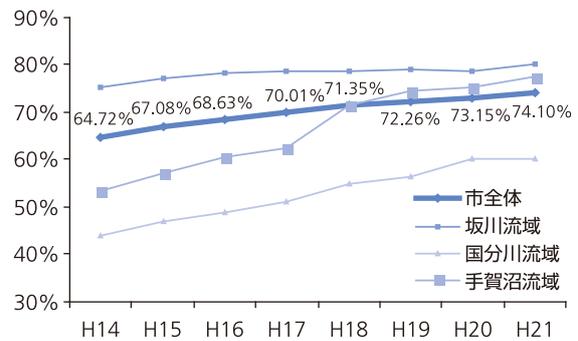
河川水質の代表的な指標であるBODの推移をみますと、坂川流域では、平成13年度に5.9mg/ℓが20年度には7.0mg/ℓに、国分川流域では、15mg/ℓが9.0mg/ℓになり、環境基準値の10mg/ℓを下回っています。

図表 25-16 松戸市の河川流域(全体：61.33km²)



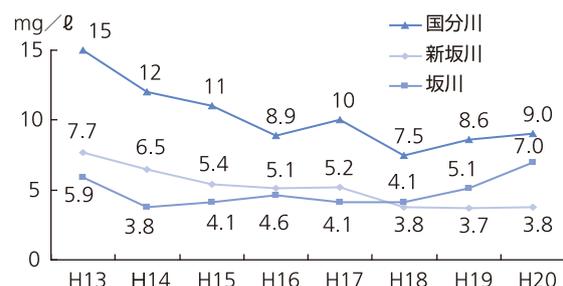
出典：河川清流課資料

図表 25-17 河川流域ごとの下水道利用率の推移



出典：下水道整備課資料

図表 25-18 BOD 経年変化(75%値)



出典：環境の現状と対策

松戸市の良さ・強み

○江戸川をはじめ大小河川に恵まれています。

めざしたい将来像

清流と豊かな自然環境の保持に向けて、浸水被害を少なくし、川に親しめるような整備をすることで、川辺が市民の憩いの場となることを実現します。

めざそう値

	実績値		現状値	めざそう値
	13年度	19年度	21年度	32年度
緑地・河川などの自然環境に満足している人の割合（再掲）	21.1%	22.7%	19.4%	25%
流域整備面積率	54.6%	57.4%	57.9%	62%
BOD（75%）値 （国分川水系）	15mg/l	8.6mg/l	9.0mg/l （20年度）	10mg/l 以下
水質基準達成率 （国分川水系 BOD）	37%	75%	83% （20年度）	100%
BOD（75%）値 （坂川水系）	5.9mg/l	5.1mg/l	7.0mg/l （20年度）	5mg/l 以下
水質基準達成率 （坂川水系 BOD）	45%	66%	58% （20年度）	100%
河川利用イベントの参加者数	—	10,395人	18,700人	22,000人
下水道利用率 （下水道利用者数 / 市内人口）	62.17%	72.26%	74.10%	85%

市民と行政それぞれの役割

●市民の役割

- 河川の浄化をはじめ環境づくりのための行動に参加します。
- 川に愛着をもち、きれいな川に保つように心がけます。
- 川に親しみをもてるようなイベントの開催などに協力するようにします。
- 住宅の新築にあたっては、雨水浸透ますを設置するようにします。
- 下水道の処理区域では汚れた水を速やかに下水道(汚水管)に接続することで、川を汚さないようにします。

●行政の役割

- 河川および水路等の雨水排水整備を推進します。
- 下水道の整備を推進します。
- 雨水浸透ますや浸透舗装を推進するようにします。
- 市民が川に親しみを持てるように、川辺の整備を進めるとともに、親水や生活排水などの啓発を行います。
- 下水道が整備されていない区域については、合併処理浄化槽の設置を促進します。
- 江戸川河川敷で、川に親しめるイベントなど新しい利用方法を検討します。



施策の展開方向

① 水害を少なくします

浸水被害常襲化地区の水害の軽減を図るため、河川と排水路の計画的な改修を行います。

市街地における雨水対策については、放流先河川の改修事業と調整を図りながら、浸水被害常襲化地区、および計画的な開発が進められている地区を中心に治水対策を推進します。

近年、都市における局所的な集中豪雨がみられ、その浸水対策が必要となってきました。

河川や排水路などの整備を推進し、保水や遊水機能の保全に努めるとともに、市民が災害(洪水)時に備えるためのソフト対策を含め、治水安全度の向上を図ります。



整備された国分川

② 水環境をよくします

本市は、行政面積に対する河川の延長が県内で最も長い都市です。親水性に配慮した護岸を整備するとともに、環境学習などの市民参加による水辺活用プロジェクトを推進し、こうした豊かな水の資源を都市の魅力づくりに生かしていきます。

また、河川の水質保全や衛生的な生活環境の向上のため、普及率100%をめざして下水道施設の整備、普及を推進します。

さらに、市内河川にかつての清流を取り戻し、生態系の維持機能の向上を図るため、排水における水質の規制や河川愛護の啓発に努め、公共下水道整備とともに河川浄化施設などの水質改善対策を推進します。

また、雨水の貯留や浸透による水源の確保や環境用水などの導入を図り、河川や湧水地の水量の確保に努めます。



坂川親水広場

関連個別計画

- 松戸市河川の治水計画
- 水環境管理基本計画

6 いつでも安心して水道水が使えるようにします

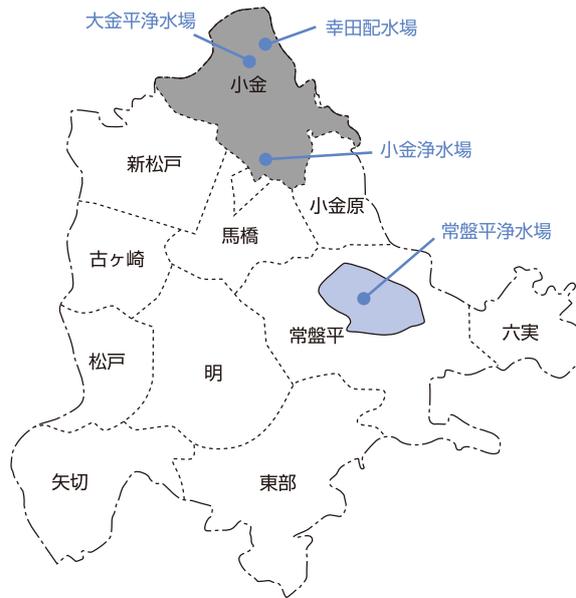
現況と課題

松戸市の上水道は、江戸川の表流水を水源とする千葉県営水道と、深層地下水及び北千葉広域水道企業団からの供給用水を水源とする松戸市営水道との、二つの水道事業者が供給しています。市営水道の給水区域は、小金地区・常盤平地区の2箇所で、給水面積は、合計7.8平方キロメートルになっています。

市営水道が行っているアンケート調査によれば、「水道事業に満足している人の割合」は、平成13年度に21.6%であったものが、19年度には28.4%と高まっています。

なお、市営水道においては、平成20年度に第5次拡張事業が完了し、小金浄水場を新設したところです。現在は、長引く景気低迷の影響を受けての水需要・料金収入の減少、老朽管をはじめとする老朽施設への対応、地震・災害への対応等が課題となっています。

図表 25-19 松戸市営水道給水区域



松戸市の良さ・強み

○市営水道は、地下水と北千葉広域水道事業団の浄水された水を、水源としているために、常に安定して水を供給できています。

めざしたい将来像

いつでも水道水が使えるために、災害に強い施設を整備することで、引き続き、安定した飲み水を実現していきます。

めざそう値

	実績値		現状値	めざそう値
	13年度	19年度	21年度	32年度
水道事業に満足している人の割合	21.6%	—	28.4% (20年2月)	41%
浄・配水施設の更新率	—	11.0%	43.6% (21年3月)	78%

市民と行政それぞれの役割

●市民の役割

○限られた水資源を大切に使います。

●行政の役割

○安全な水を安定的に供給します。

○水道管等、施設のメンテナンスに関する合理的な計画をたて、実行します。

○水道水の供給源を確保します。

○災害など万一に備えての市・県の連携を充実するなど緊急対応できるようにします。

施策の展開方向

水道事業の経営にあたり、経営目標である、「安全で良質な水の供給」、「安定給水の確保」、「サービスの向上と健全経営」を行うため、常に事業の見直し・精査を行っていきます。

また、今後も耐震性の向上を図るため、耐用年数を迎える老朽管を始めとする浄・配水場の老朽施設を地震などの災害時にも水を確保できるよう、適切な耐震性能を有する施設へと、計画的に更新していきます。



関連個別計画

○水道施設更新事業計画(市営水道)